真美中だより

令和６年度
２月号
令和７年　２月　３日発行
発行者　校長　西畑

めざす生徒像
☆基礎・基本を定着させ、自ら学び考えて行動できる生徒　（確かな学力）
☆勤労と責任を重んじ、礼儀正しく社会参画できる生徒　（豊かな心）
☆明るく元気でたくましく心身を鍛える生徒　（たくましい心身）

校訓
学び鍛える人たれ
明るく優しき人たれ
耐え忍べる人たれ

春の足音がすぐそこまで！

今年は２月３日が立春で、もうすぐ暦の上では春となりますが、まだまだ厳しい寒さが続いています。しかしながら、陽光は心なしかきらきら輝いて感じられ、春の足音がすぐそこまで近づいて来ているようです。

奈良県では、昨年末からインフルエンザが流行し始め、１２月２７日には、インフルエンザ警報が発令されました。その後年を越し、本校では感染者はさほど多くなかったのですが、１月２８日に１年１組でインフルエンザや発熱等による欠席者が増え、２８日～３０日の間学級閉鎖の措置をとりました。学校では、手洗いの励行、換気を十分にすることなど全体に指導をしているところです。ご家庭でも協力お願いします。

さて、令和６年度も残すところ２か月足らずとなりました。生徒たちは、１年間の学習のまとめに取り組む時期となってきました。特に３年生にとっては、いよいよ県内私学入試が６・７日に、県外私学入試が１０・１１日、特色選抜入試が１８・１９日に実施されます。これまでの地道な学習の成果を発揮し、良い結果をつかみ取ってほしいものです。

２月２日は節分

２月２日は「節分（せつぶん）」でした。節分とは本来、「季節を分ける」つまり季節が移り変わる節日を指し、立春・立夏・立秋・立冬それぞれの前日に、１年に４回あったものでした。ところが、日本では立春は１年のはじまりとして、特に尊ばれたため、次第に節分といえば春の節分のみを指すようになっていったようです。

立春を１年のはじまりである新年と考えれば、節分は大晦日（おおみそか）にあたります。平安時代の宮中では、大晦日に陰陽師らによって旧年の厄や災難を祓い清める「追儺（ついな）」の行事が行われていました。室町時代以降は豆をまいて悪鬼を追い出す行事へと発展し、民間にも定着していきました。

節分には豆をまきますが、これは中国の習俗が伝わったものとされています。豆は「魔滅（まめ）」に通じ、無病息災を祈る意味があります。昔、京都の鞍馬に鬼が出たとき、毘沙門天のお告げによって大豆を鬼の目に投げつけたところ、鬼を退治できたという話が残っており、「魔の目（魔目＝まめ）」に豆を投げつけて「魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通じるということです。

豆まきは一般的に、一家の主人あるいは「年男」（その年の干支生まれの人）が豆をまくものとされていますが、家庭によっては家族全員で、というところも多いようです。家族は自分の数え年の数だけ豆を食べると病気にならず健康でいられると言われています。

ただ、豆まきに使う豆は炒った豆でなくてはなりません。なぜなら、生の豆を使うと拾い忘れた豆から芽が出てしまうと縁起が悪いからです。「炒る」は「射る」にも通じ、また、鬼や大豆は陰陽五行説（「木」「火」「土」「金」「水」の五行）の「金」にあたり、この「金」の作用を滅するといわれる「火」で大豆を炒ることで、鬼を封じ込めるという意味があります。そして最後は、豆を人間が食べてしまうことにより、鬼を退治した、ということになるわけです。

２　月　学　校　行　事　等

February

SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY
2月						1
2	3 立春 45分×６限 心	4 １年キャリア教育発表会	5 ２年実力テスト １年いじめ防止出前授業 清掃なし 県SC　心	6 県内私学入試① ３年家庭学習	7 県内私学入試② 45分×６限 心	8
9	１０ 県外私学入試① ふれあいタイム① 45分×６限 清掃なし	１１ 建国記念の日 県外私学入試②	１２ ふれあいタイム② 45分×５限 清掃あり	１３ ふれあいタイム③ 45分×６限 清掃なし 町SC	１４ ふれあいタイム④ 45分×５限 清掃あり 心	１５
１６	１７ ふれあいタイム⑤ 45分×６限 清掃なし 町SC	１８ 特色選抜入試① ３年家庭学習 ふれあいタイム⑤ 45分×６限 清掃なし	１９ 特色選抜入試② 県SC	２０ ３年期末テスト① ３年２限下校	２１ ３年期末テスト② ３年３限下校 心	２２
２３ 天皇誕生日	２４ 振替休日	２５ ３年期末テスト③ ３年給食後下校	２６ 特色選抜発表 １・２年期末テスト① 全学年２限	２７ １・２年期末テスト② 全学年３限 町SC	２８ １・２年期末テスト③ 全学年３限	

県ＳＣ‥‥北野先生　　**町ＳＣ**‥‥松本先生、松村先生　　**心（心の相談員）**‥‥小西先生

今月の一言

どんなに勉強し、勤勉であっても、上手くいかないこともある。これは機がまだ熟していないからであるから、ますます自らを鼓舞して耐えなければならない。

渋沢栄一（1840年～1931年）
日本の武士（幕臣）、官僚、実業家。多種多様な企業の設立・経営に関わり、日本資本主義の父と称される。